令和6年度　西東京市立 碧山 小学校　学校評価表(後期)

学校教育目標	◎自分でよく考え工夫する子　○ねばり強く前向きに取り組む子　○人の立場に立って行動する子
目指す学校像	子どもが生き生きと前向きに活躍し、保護者・地域から信頼される学校 ～一人一人のよさが生き、共に学び高め合っていく教育活動を通して～ (個性の尊重)　(共生の重視)
目指す児童像	・課題解決のために主体的に考え創意工夫する子　・物事を前向きにとらえ、積極的かつねばり強く取り組む子 ・人とのかかわりを大切にし、力を合わせて活動する子
目指す教師像	・ 探究的・問題解決的な学習を実践し、子どもの自己解決力・学ぶ意欲の向上を図ることのできる教師 ・不断の向上心をもち、前向きに工夫・改善を目指す教師 ・一人一人の子どもを大切にし、子どものわずかな変化を見落とさない教師 ・学校組織の一員として協力・協働して取り組む教師 ・子どもを中心に考えるとともに、保護者・地域から信頼される教師

		後期学校自己評価			後期学校関係者評価	
		努力目標	成果目標	学校の取組及び次年度に向けた改善策	評価	記述欄
確かな学力の向上	Q1 GIGAスクール構想の推進に向けて、タブレット端末の活用を図ることができたか。	3	3.6	月２回程度朝の時間にタブレット学習を行い、授業に月３回ICT支援員に入ってもらうなど、タブレット端末の活用を図っている。現在低学年では、タブレット慣れの一環としてビスケットなどのプログラミング学習、中学年では、授業や係活動でスライドの活用、高学年では、理科の学習と関連させたプログラミングなど、各学年の学習内容などに合わせた指導を行っている。体育では、縄跳びカードをスプレッドシートで作成するなど、様々な教科でタブレット端末の活用を図っている。今後も児童の実態に応じて積極的にタブレット端末を活用していく。	3.8	・タブレットを活用した学習が進んでおり、家庭や学童でもその姿が見られる。 ・先生の工夫が感じられ、効果的な活用が伝わる。 ・ICT教育の推進に期待が高まる一方で、管理や手書き学習のバランスにも配慮が望まれる。
	Q2 地域の教材、人材を活用したり、体験的な活動を取り入れたりして、問題解決力の向上を図ることができたか。	3	3.3	「西東京ふるさと探究学習」の取組として、地域の人材に授業で協力いただく機会を多く取り入れるようにしている。地域の農家さんやスーパーマーケットへの見学、茶道体験など、学年ごとの学習内容と地域の教材や人材を組み合わせて魅力的な学習を計画し、実施した。また、総合的な学習の時間や社会科の学習では、児童自ら課題を見出し、問題解決を図ることができるような授業展開に努めた。今後も継続して行っていく。	3.8	・地域の人材を活用した学習やプロジェクトが実施されている。 ・興味のあることに向かう姿勢は良好で、今後はその幅を広げる働きかけが期待される。 ・地域の人材活用は十分にできており、評価がやや低いと感じる。
豊かな心の育成	Q3 いじめをしない、させない集団作りを行うとともに、差別や偏見をもたせない学級経営、学年経営を行うことができたか。	3	3.5	いじめは絶対にしてはいけないことを年3回のいじめに関する授業をはじめ、日頃から繰り返し指導を重ねている。児童がいじめを訴えてきたときや、教員がいじめの疑いを見つけたときは、基本的には複数の教員で対応に当たっている。いじめ対策防止委員会で対策を検討している。関係する児童の保護者への報告も適宜行っている。経過観察を行うとともに、再発防止に努めている。	4	・いじめ防止に向けた取り組みは難しいが、当事者間の立場に配慮し中立的に関わる姿勢が見られる。 ・複数の教員で対応し、情報共有を行いながら進めている。 ・いじめをする子どもの背景にも十分にケアが必要だと考える。
	Q4 「西東京あったか先生」に沿った指導で、児童・保護者から信頼されるように努めることができたか。	3	3.7	「あったか先生」の6項目に基づいて指導に取り組むことができた。児童が相談しやすいように、教員から積極的に声掛けをしたり、複数の教員で見守ったりしている。常に教員間で児童の様子についての情報を共有し、管理職への相談も円滑に行えた。来年度も、教員間の連携を生かし、多くの目で児童を見守り、丁寧に聞き取りを行うなど、日頃から児童との信頼関係を築くようにしていく。	4	・複数の教員が連携し、きめ細かい対応を行っている。 ・「西東京あったか先生」の制度の活用により、児童一人一人に寄り添ったサポートがなされている。
	Q5 元気な挨拶、「はい」という返事を大切にし，基本的生活習慣の定着を図り、きまりを守る児童の育成に努めることができたか。	3	3.9	あいさつ週間を活用し、気持ちのよい挨拶を習慣化できるよう指導している。碧山小学校の約束を教職員が再度確認し、曖昧になりがちな点を再度確認した。どの教員も同じ認識で同じ指導できるようにしていく。子供たちに碧山小学校の約束がきちんと身につくよう、今後も折に触れ指導を繰り返し、根気強く児童への定着を図っていく。	3.8	・生活指導を根気強く行い、基本的な生活習慣を促進している。 ・学校外での挨拶の場面で、支援をしていきたいと考えている。 ・下校時のパトロール中、複数の児童から「こんにちは」と声をかけられた。
健やかな体の育成	Q6 体力テストの課題運動を体育の導入に位置づけるなど、児童の体力向上を進めることができたか。	3	3.6	前期に続いて朝運動や休み時間のボール開放などの取組みにより、ボールを使った遊びに取り組む児童が引き続き多くなっている。また、広い校庭、芝生を活用し伸び伸びと体育の学習ができ、体力向上を進めることができた。1月からはICTを活用したなわとびカードを全校で進めたり、朝運動の時間に各学年で取り組んだりと、持久力を高めることができた。来年度も、碧山小の課題に対応した取り組みを進めていきたい。	4	・運動の機会を増やし、児童の体力向上に努めている。 ・遊びの中で、自然に体を動かすことができている。 ・座り方や立ち方など意識的に体を使う働きかけの工夫を期待している。 ・運動会の完全復活を目指していただけるとよりよい。
	Q7 児童の食物アレルギーに細心の注意を払うとともに，特別支援教育の充実を図るため，具体的な方策をもつなど保護者と協力して支援することができたか。	3	3	食の安心・安全に関わる事項については、全教職員で徹底して研修し周知している。特に担任以外が給食指導に入るときにはアレルギーを必ず確認するよう徹底している。 特別支援教育の重要性については、教職員全員が同じように理解し取り組みを続けている。どの学級からも必要な支援へと繋げることができる組織的な対応を維持しつつ、各学級内での支援をより充実させていけるよう、合理的配慮に関わるＯＪＴを重ねていきたい。	3.8	・異物混入は残念だが、その他の取組は評価できる。 ・全員が食物アレルギーについての共通認識をもって対応している点は高く評価できる。 ・先生方が特別支援教育についての必要な学びを続けている姿勢が見られる。 ・評価が低すぎる印象がある。取組の充実が伝わってくる。
地域と歩む学校	Q8 地域の人材を積極的に活用し，保護者や地域が学校に寄せる思いや願いを受け止め、すばやい対応・親身の指導を日々行うことができたか。	3	3.5	各学期一度以上の学校公開を通して、開かれた教育活動の推進に努めることができた。また、地域の人材にご協力いただくことで、リアルな体験活動を行ったり、お話を伺ったりと充実した教育活動を行うことができた。行事の後のアンケートでは「すぐーる」を活用し、保護者の感想やご意見をたくさんいただくことができた。次年度以降の教育活動に反映させていく。保護者への対応では、傾聴・受容を基本に保護者や地域の方の願いや思いを共有した上で、学校として子どもたちのために何ができるかを大切にして対応にあたりたい。	4	・学校公開を積極的に行い、地域の人材を活用している。道徳地区公開講座の５・６年生の参加がよかった。 ・「すぐーる」の活用が有効であると感じる。 ・保護者のボランティア活動が、子どもが卒業した後も学校への応援につながるよう、地域と学校が継続的に関われるような仕組みづくりが期待される。
	Q9 学校便り・学年便り・学校ホームページ等を通じて情報発信に努め，教育活動に対する保護者や地域の理解を深めることができたか。	3	3.6	毎月の学校便り・学年便りの発行やホームページなどを通して、教育活動について発信を続けることができた。次年度は、働き方改革の一つとして、学年ごとに作成していた学年便りを廃止し、学校便りに一本化する。また、紙の配布ではなく、「すぐーる」を使って、PDFで保護者に確実に学校の情報が届くようにする。時代に合った情報発信に努めるとともに、より一層、本校の教育活動に対する理解を深めていただけるような工夫を続けていく。	4	・来年度から、学校便りをデータで配信するとのこと。来年度の更なる工夫や充実に期待している。 ・今後も先生方の思いや取組が伝わる発信ツールとしての活用が期待される。
働き方改革	Q10 仕事の効率化を図り、時間外労働を減らすことができたか。	3	2.5	2学期は期間が長く、大きな行事が続いたことや学習内容が多いこと等の理由から前期と比べ「忙しさ」を感じる教職員が多かった。今後も解決すべき課題を一人で抱え込むことなく、組織で対応していくことで、精神的な負担を軽減できるようにしていく必要がある。次年度以降も、学校現場でできる働き方改革を進め少しでも効率的に働ける環境づくりをしていくとともに、子どもたちだけでなく教職員にとっても納得感や充実感、達成感を感じられる教育活動を充実させていく。	3.5	・仕事の効率化や働き方改革は難しい課題だが、無駄の排除や業務整理の検討が求められる。 ・先生方の努力は感じられ、さらなる工夫による評価の向上が期待される。 ・先生の人数不足も課題であり、子どもと関わる時間の確保が大切。 ・納得感や達成感をもって働ける環境づくりを引き続き進めてほしい。